

◆◇ほ場整備事業による排水改良◆◇ ほ場整備で水はけが良くなる

農業経営の安定化を図る方法として、農地集積による経営面積を拡大、大型機械の導入などがあります。規模拡大、大型機械導入には生産基盤であるほ場の整備が重要です。

このため、国営茨城中部地区をはじめ、多くの地区ではほ場整備事業が実施されています。

ほ場整備事業により区画整理、農道等を整備することで、作業効率が良くなるほか、排水路やほ場内暗渠を整備することにより事業実施前と比較して、ほ場の排水性が向上します。

ほ場整備前と整備後で、どの程度ほ場の排水性は向上するのでしょうか。関東農政局では（国法）農業・食品産業総合技術研究機構、茨城県と協力し国営茨城中部地区内に調査ほ場を設置し、かんしょによる実証調査を行いました。

その結果、ほ場整備後には、ほ場の排水性が向上していることが確認できました。ほ場の排水性が向上することで水田畑利用での畑作物の栽培も可能になります。

◆調査の概要

調査ほ場：国営茨城中部地区水田ほ場（水戸市）

同じ水田ではほ場整備前（令和元年）とほ場整備後（令和2年）のほ場の土壌水分率（土壌100gあたりに含まれる水分割合）で比較。

なお、土壌水分率は地表から5cm、15cm、25cmの深さで観測。



調査ほ場での栽培状況

◆調査結果

ほ場整備により排水路、ほ場暗渠を整備したことで、整備前に比べ雨が降った後の土壌中に含まれる水分量の低下速度が早く、また、土壌水分率も低くなる傾向にあります。

整備後のかんしょ10aあたりの収量も3,436kgと茨城県平均収量を上回っていました。



調査圃ほ場で収穫したかんしょ

